

2020年度
入学試験問題

国 語

2月1日 午後

受験番号	氏 名

中村中学校

問題は次のページからです。

□ 次の(1)～(10)の——線のカタカナを漢字に直して答えなさい。

- (1) 前に経験している人を参加者からジヨガイする。
- (2) 先生の言うことをチュウジツに守る。
- (3) 選挙のあとに新しいナイカクができた。
- (4) 今日はハウモン客がたくさんやってきた。
- (5) 病気で入院した時、手厚いカンゴをしてもらった。
- (6) 卒業文集のヘンシユウを手伝う。
- (7) それは人類にとって大変キチヨウな発見だった。
- (8) 天気がよいので、ふとんをホす。
- (9) 庭にチュウリップをウえる。
- (10) 雨が降ったので、遠足の日がノびってしまった。

二 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

(設問の都合上、本文を改変、省略したところがあります。)

*字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

幼稚園ようちえん

や保育園の卒園式で「一年生になったら」という

童謡どうよう

を歌った覚えはありませんか。小学校で友だちが一〇

人できるといいなあというとも有名Aな歌ですが、もし

かすると、あれは「呪いのろの歌」だったのではないでしょう

か。

5

現代の日本社会には、ツイッターやインスタグラムなどのSNSのフォロワー数をめぐって日夜競争が繰り広げられている状じょうきょう況があります。今や男子高校生の約六割、

女子に至っては約八割がツイッターのアカウントを持って

いるという調査結果もあります。どれだけたくさんの「友

だち」や「フォロワー」に囲まれているかが、その人の価

値を決めると考える風潮、あなたの周囲にはありませんか。

そういう状況じやうきやうに否応いやおうなくさらされている人にオススメな

のが、イギリスのオックスフォード大学で進化心理学の

教鞭きょうべんをとるロビン・ダンバーの科学エッセイ集『友達の

15

数は何人? ——ダンバー数とつながりの進化心理学』で

す。

ダンバーに言わせると、人間は一五〇人を超こえる相手と

友だちであり続けることは難しいそうです。親友になると

だいたい三〜五人くらい、あなたが死んで悲しみにくれる

人は、家族を含ふくめて二〜一五人くらいが平均で、それを

大幅おほはばに超えるのは脳の構造的に無理があるといふのです

ね。

たしかに言われてみれば、アニメの登場人物も、ヒーロ

ー戦隊のメンバーも、メイン・キャラクターは五人くらい

です。それ以上になると個々のキャラに感情移入しにくく

なったり、チームとしてのまとまりがなくなったりするの

でしょう。

もちろん「友だち」の数が多いと得になることもありま

す。たくさんの「友だち」や著名人の「友だち」は、自分

が偉大いだいな存在であることを証明するトロフィーとして機能

しますからね。超ちやうじんてき人的な「カリスマ」として振ふる舞まいた

い人には、そういうセルフ・プロデュースも必要です。

a 「友だち」が多いからといって、本当に質の高

い人間関係を営んでいるとは限りません。限りある時間と

脳機能とを少数の相手に振り分けて濃密のうみつな時間を過ごすこ

とで、自分のために泣いてくれるような親友を手に入れた

ほうが幸せになれるという考え方だっであつてよいはずで
す。

40

この本のなかには、仮説段階の内容も含まれているため、
すべてを鵜呑みにはできませんが、少なくとも「一人の人
間が持てる友だちの数には限界がある」と考えることで、
気持ちが悪になることがあるかもしれませぬ。

他にも「人間の噂 話や陰口は、サルの毛づくろいの 45

ようなもの！」などといった話題もあり、読めばきつとあ
なたの友だち観を大きく変えてくれるはずだ。

① 続けて紹介したいのが、社会学者、菅野仁の『友だ
ち幻想——人と人のへつながり』を考える』です。

実は、日本の若者の友人関係は、世界的に見て、かなり珍 50

しいのです。日本の若者はアメリカや韓国など他国の若者
と比べて「別に偉くならなくていいし、お金持ちにならな
くてもいいから、たくさんの友人、一生つきあえる友人を
得たい」と考える傾向が強く、しかも現実の友人関係の満
② 足度はとても低いということが、各国との比較調査の中で 55
わかつています。

b、ぼくたちは、理想の友だちを一途に追い求め、

だからこそうまくいかなくて苦しんでいる。これは一種の
「呪い」であり「病」だといえます。そして菅野さんの本

はそうした状況をどう生きていけば良いかの指針を示して 60
くれるのです。

「友だち幻想」というのは、著者である菅野さんが発明
した言葉です。もし仮に「価値観を一〇〇パーセント共有
する真の友だち」がいたとしたら、それはもはや友だちと
いうより自分の分身でしょう。現実の友だちには必ず自分
と異なる部分があるはずだ。

そうであるにもかかわらず「友だちとは一〇〇パーセン
ト分かりあえるはずだ／分かりあわないといけないんだ」
という過剰な思いを抱いてしまうこと、それが「友だち
幻想」です。菅野さんは、この幻にこそ「友だち」関係 70
をめぐる苦しみの根源があるというのですね。

そういった幻想を抱くかぎり、「周りは気の合わない奴
ばかり。どこにいけば本当の親友に巡りあえるの？」とい
って現実の他者との関係性がなかなか深まっていかなか
り、現実の人間関係への期待外れに腹が立って「もう友
③ だちなんていらぬ！」というやさぐれた気持ちになつた
りしがちです。

菅野さんは、だからこそ「友だち幻想」をなんとか乗り越
えて、他者に期待しすぎず、適度に距離をとりながら生き
ようじゃないか、その方が、味わい深い人生になるよ、と 80

言うのです。

④ ぼくはこの本を読んで、哲学者シヨールペンハウアーの「ヤマアラシの寓話」を思い出しました。ヤマアラシというのは背中などに針状の毛をたくさん生やしたネズミ目の動物です。

冬の夜、ヤマアラシたちは互いの温もりを求めて身を寄せ合おうとしますが、近づくと針で互いを傷つけてしまうため、うまく温め合うことができません。そのため、かれらは幾度もくつついたり離れたりを繰り返さなければならぬのです。

人間もまた、このヤマアラシたちと同じように、傷つき傷つけられながら、それでも他者を求めずにはいられない存在です。そのため「一緒にいないと孤独、でも一緒にいると窮屈」という矛盾した気持ちのことを、いつしか心理学では「ヤマアラシのジレンマ」と呼ぶようになりました。この「ヤマアラシのジレンマ」に苦しむことが多いのは、特に一〇代半ば〜二〇代半ばの「青年期」だと言われています。

⑤ さて結局、寓話のなかのヤマアラシたちは、試行錯誤の果てに、互いに温め合おうという欲求は不完全にしか満たされないけれど、そのかわりに針で刺される痛みもないよ

うな、ほどほどの距離を探し当ててそこに安住するという道を選びます。

悲しいことですが、人間の「お互いを分かり合う能力」には限界があります。だからこそ他者に対して高望みすることを断念し、適度な距離感で人と付き合うということがあってもいいのかもしれない。それに、友だちにあれこれ求めすぎないことが、友情を逆に深めることもあるはず

『答えは本の中に隠れている』所収

山本宏樹「友だちのつくりかた」岩波書店

※セルフ・プロデュース……自分で自分のイメージを他人に売りこむこと。自己演出。

問一 〓 線A、Bの熟語の読みの組み合わせとして

適当なものを次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア、音と音
- イ、訓と訓
- ウ、音と訓
- エ、訓と音

問三 〓 線①とありますが、どのような友だち観か

らどのような友だち観に変えるとよいと筆者は考えていますか。次の

1

 と

2

 に入る言葉をそれぞれ本文中から探し、最初と最後の五字を答えなさい。

1 (五十字以内)

 から、

2 (七十五字以内)

 に変えるとよい。

問二

a

 と

b

 に入る言葉を次からそれぞれ選

び、記号で答えなさい。

- ア、でも
- イ、また
- ウ、むしろ
- エ、つまり

問四 〓 線②とありますが、なぜ日本の若者の友人

関係はこのような傾向があるのですか。本文中の言葉を用いて、五十字以内でまとめなさい。

問五 ——— 線③とありますが、どのような意味ですか。

最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、他者に優^{やさ}しい気持ち
- イ、投げやりになる気持ち
- ウ、自分に素直^{すなお}な気持ち
- エ、固く決心する気持ち

問六 ——— 線④とありますが、筆者が『友だち幻想』

を読んで「ヤマアラシの寓話」を思い出したのは、

二つの作品に共通点があるためだと考えられます。

その共通点を三十五字以上四十五字以内で説明しなさい。

問七 ——— 線⑤は「四字熟語」ですが、次から正しい

「四字熟語」を二つ^い選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア、海千川千
- イ、朝三暮四
- ウ、四方美人
- エ、画田引水
- オ、空前絶語
- カ、自画自賛

問八

この文章を読んだAさんとBさんは、「友だちとの適度な距離感」について次のような意見をもちました。あなたは二人の意見に対して、どのように考えますか。

《Aさんの意見》

私は友だちと距離を置く必要はないと思います。友だちだからこそお互いのことを何でも知っておくべきだと考えるからです。それが友だちというものだと思います。

《Bさんの意見》

私は友だちでもある程度の距離は必要だと思います。持ち物など何でもおそろいにするのが友だちの証という人もいますが、それでは個性がなくなってしまうと考えるからです。

三 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

(設問の都合上、本文を改変、省略したところがあります。)

*字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

マチは本が大好きな中学一年生。図書室の一冊の本には
さんであった便せんがきっかけて見えない相手とのメモ
文通が始まる。場面は文化祭が近づいた頃で、クラス発表
の合唱の練習に力が入っている。

人はただ 風の中を 迷いながら 歩き続ける

足を肩幅かたはばに開いて床ゆかにしつかりつけ、声を出すのが、朝
の練習はまだ体が完全には声を出す態勢に入っていないの
か、歌っている最中でも、自分たちの声が出ていないのが
わかった。

文化祭で歌う『遠い日の歌』の、ソプラノのパート練習。
オルガンで音を取りながら、一度通して歌い、二度目の
練習に入る。 a、途中で、教室の後ろのドアが開い
て、ソプラノのパートリーダーである琴穂ことほが顔を出した。
「ごめん！ 部活の片づけで遅れちゃった」
オルガンを囲んでいたソプラノの女子が一斉いっせいに歌うのを

10

やめて、声の方向を見る。琴穂が顔の前で手を合わせて「ご
めんごめん」と言いながら駆け寄ってくる。

「本当にごめんね。今どこ歌ってた？」

「——いいよ、もう一度最初からやろう」

b 練習が再開され、琴穂も加わったが、歌い始め
る前に、マチの後ろで「琴穂ちゃん、いつも遅れてくるよ
ね」という小さな声が聞こえた。自分のことではないけど、
ドキンとする。聞いてはいけない気がするのに、耳が勝手
に声の続きを聞いてしまう。

「リーダーなのに、やる気あるのかな」

琴穂は朝練習を遅刻ちこくすることが多い。 c、放課後
も部活を理由に早めに練習を切り上げ、他のみんなを残し
て先に教室を出て行ってしまふことがよくあった。

25

歌った後で、それぞれグループごと、自分たちの歌の悪
い部分について話し合う。

教室の隅すみから、アルトの女子の声が聞こえてくる。自分
たちのソプラノより歌声がまとまっているように聞こえ
て、このままじゃ合わせて練習したときに声量が負けてし
まうのではないか、つられてしまふのではないかと心配だ。
アルトのリーダーであるみなみの声が一際ひとときよく聞こえる。

マチがみなみの方を見ていると、琴穂が「ねえねえ」と

30

15

話しかけてきた。てつきり合唱に関することだろうと振り向くと、いきなり「聞いてみた？」と聞かれた。

「何を？」

「みなみと恒河こうがのことだよ。夏休み、自由研究いっしょ一緒にやっ
たんでしょ？ あの二人、つきあっているの？」

小声になつて関係のない話をしようとする。

その言葉を聞いた途端とたん、ふいに、マチの胸の中でたくさ
んの感情が一度に揺れ動いた。

『リーダーなのに、やる気あるのかな』

さつき聞いたばかりの声を思い出したら、悲しくなった。
本音を言えば、琴穂に真剣しんけんに練習して欲しいのはマチも同
じだ。

「ちゃんと練習、しようよ」

とつきに飛び出した声が我ながら冷たく聞こえて、驚おどろ
いた。琴穂が「え」と短く声を出す。きよんとしたその
表情を見たら、もう一押しひとおし、声が止まらずに出てしまった。

「しつかりやろうよ。琴穂、遅れてきたのに、関係のない
話したり、全然、みんなに悪いと思つてる様子がないよ。」

琴穂が目を見開いた。

A

と、表情で

わかった。わかった途端、喉元のどもとが苦しくなつて、それから
全身が熱くなる。顔を伏せて、琴穂から離れた。

ややあつて、背後から「わかった」と琴穂の声が答えた。

思いがけず素直すなおな声だったせいで、琴穂が沈んだ様子な
が、振り返らなくても伝わってくる。マチが返事をするよ
り早く、「じゃ、もう一度ね」と他の子の声がして、歌の
練習がまた始まつてしまう。

声がうまく出なかった。息が苦しかった。

練習が終わつた後で様子を見ると、琴穂は顔を俯うつむけな
がら席せきに戻るところだった。マチの胸を小さな痛みがちく
りと刺した。

そのとき、「マチ」と呼びかけられた。さつき、琴穂の
遅刻を責めていた子たちだ。

「琴穂のこと、ありがとう。マチみたいな
が注意してくれると助かるよ」

B

こつそりと囁ささやくような声に「ううん」と首を振る。感
謝されるようなことは何もない。黙だまって一人で席に着いた
琴穂のことが気がかりだった。

その日は一日中、同じ教室の中で琴穂と気まずい時間を
過ごした。

「どうしたの？ マチ、元気ないね」

「そんなことないよ」

みなみの声にも首を振る。誰だれにも、これ以上何も言いたく
なかつた。

一人で帰る前に、図書室に本を返しに寄る。本と紙の匂にお
いに包まれた大好きな場所に入った途端、全身から力が抜ぬ
けて、泣き出しそうな気持ちになった。明日から、琴穂と
どう顔を合わせればいいかわからなかつた。合唱練習は明
日もあるのに。

そのとき、図書室の奥おくの壁沿かべいに並んだ、百科事典が目
に留とまつた。見えない"誰か"と続けている文通。次にメ
モを残すのはマチの番だつた。

本を手に取り、いつもより長く、手紙を書いた。

『真面目まじめだ、いい子だ、と言われると、ほめられているは
ずなのに、なんだか苦しくなる。はつきり言えないことを優やさ
しいって言ってくれる人もいるけど、わたしは、本当は自
分が人に嫌きらわれたくないからそうしてるんだと思う。わた
しは臆病おくびょうです。』

次の日の朝練に、琴穂は遅刻もせず、時間より早く現れ
た。

何事もなかつたかのように「さあ、練習するよー」と明

95

るい声を出してみんなの前に立つ。マチにも「マチ、おは
よう」と普段通り挨拶あいさつしてくれた。

その声にはつとして、マチも「おはよう」と返事をする。
けれど、琴穂が無理をしているんじゃないかと、やつぱり
まだ気になった。

その日の放課後、図書室に急いで、ドキドキしながら本
を開いた。昨日残した自分の長い手紙に、相手がどんな返
事を残しているかを考えると、待ち遠しいような、怖こわいよ
うな気持ちだつた。

本を開くと、返事はもう来ていた。いつもより長い。

『
C
』

—— がんばって。

読んだ瞬間しゅんかん、胸がぐつと熱くなつた。
手紙を抜き取って、本を元に戻す。何度も何度も読んで
から、お守りのように、そつと胸に当てた。便せんの内側
が、あたたかく熱を持っているように感じた。

翌日の練習で、マチは思いきつて、琴穂に自分の方から
「おはよう」と挨拶あいさつしてみた。^②練習用のテープのセットを
していた琴穂が、驚いたように一瞬黙もくつてから、マチの顔
を見て、それから、一呼吸ほほえついて、微笑ほほえんだ。

「おはよう、マチ。がんばろうね」

115

105

「うん。——テープ借りてきてくれたの？　ありがとう」
「一応、リーダーだから」

照れくさそうに、琴穂がマチからぱつと目をそらした。
その日から、ソプラノは、みんなだんだんと声が出るよ
うになっていった。

文化祭当日の合唱は、今までの練習の中でも声が一番伸
びやかに重なって聞こえた。

アルトや、男子の声にだつて負けていない。横の琴穂と
も声がひとつになつてしている手ごたえがあつた。

③歌いながら、気づくことがあつた。

みなみたちのアルトと違つて、マチたちのソプラノはパ
ートリーダーがなかなか決まらなかった。そのときに手を
挙げて、リーダーになつたのは琴穂だ。深く考えなかつた
けど、あれは、他に誰も立候補がなく練習が進まないのを
見て、琴穂がみんなが嫌がる役を進んで引き受けてくれた
のではないだろうか。

だとすれば、それはとても勇気があることだと思う。

人はただ　風の中を　祈りながら　歩き続ける

135

130

125

120

歌詞を噛みしめるように声を出しながら、マチは「あり
がとう」と思った。琴穂にも、手紙をくれた見えない誰か
にも。

歌い終えた後で、琴穂から「やったね」と声をかけられ
た。他の学年の生徒からの拍手の大きさが、合唱の成功を
物語って聞こえた。「うん」と頷き、お互いに手に拳を握
つてガッツポーズを作る。

教室に戻るとき、みなみからも「マチ、がんばったね」
と声をかけられた。

④「ソプラノの子たちから聞いたけど、練習をまとめるきつ
かけを作ったのはマチだつたんだつてね。偉い！」

「私、何もしてないよ。それを言うなら、みなみちゃんだ
つてアルトをしつかりまとめて、私なんかよりずっと、
普段から偉いよ」

「ううん。マチはいつも、あんまりはつきり人を注意した
りしないし、私、マチは人が傷つくのが嫌な優しい子だと
思つてたんだ。そういう優しい人が誰かを注意するのつて、
私が普段やつてるのより何倍も勇気がいると思う。マチは
すごいよ」

「そんなこと……」

恥ずかしくて顔を伏せ、感激しながら俯いたそのときだ

155

150

145

140

った。 [1] の言葉の一部分が、 [2] の心の柔らかな場所^{やわ}にふつと入りこんできた。 あつと思いがたる。

[3] の今の言葉は、 [4] がもらった図書室のあのメモの言葉とどこか似ている。

普段からはつきり意見が言えないこと。誰かが傷つくのが嫌なこと。 [5] を励^{はげ}ますような力強い言葉と、考え方だ。

言葉が出てこなかった。そのままじつと、 [6] の顔を見つめる。 [7] はもう、前を向いてしまっている。

思い出す、記憶^{きおく}があつた。

『ナルニア国ものがたり』の二巻と三巻。手紙の主がマチに最初に返事をくれた、あの本。本が返却^{へんきやく}されたばかりの棚^{たな}の前に、あの朝、みなみがいた。——まるで本を返したのが、みなみだったのようなタイミングで。

胸がざわざわする。ひとつの可能性がふつと浮^うかんだ。

D

(辻村深月『サクラ咲く』光文社)

175

170

165

問一

a) c に入る適当な言葉を次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア、その上 イ、つまり
ウ、すると エ、すぐに

問二

——線①とありますが、この「感情」にあてはまらないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、リーダーとしての自覚のない琴穂に対するいらだち。

イ、このままでは合唱がうまくいかないのではないかという心配。

ウ、違う話題でグループのまとまりを乱そうとする琴穂への怒り^{いか}。

エ、このままではグループ内で琴穂の存在が浮いてしまふという不安。

オ、遅れてきた上に練習に集中できていない琴穂への失望。

問三

A

に入る適当な言葉を次から一つ選び、
記号で答えなさい。

- ア、怒りを感じているのだ
- イ、反感を胸に秘^ひめているのだ
- ウ、ショックを受けたのだ
- エ、反省したのだ

問五

C

に入る会話として適当なものを次から
一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、断れない、はっきり言えない人は、自分の気持ち
をうまく伝えられない人だから、誤解されちゃう
よ。がんばって。

- イ、断れない、はっきり言えない人は、自分が傷つき
たくないから殻^{から}に閉じこもってしまう内気な人だ
と思う。がんばって。

- ウ、断れない、はっきり言えない人は、いずれ周りか
ら信用されなくなるからひとりぼっちになっちゃ
うよ。がんばって。

- エ、断れない、はっきり言えない人は、誰かが傷つく
のが嫌で、人の傷まで自分で背負ってしまう強い
人だと思ふ。がんばって。

問四

B

に入る適当な言葉を次から一つ選び、
記号で答えなさい。

- ア、まじめない子
- イ、活発でしつかりした子
- ウ、おとなしい子
- エ、自分にもきびしい子

問六 —— 線②とありますが、琴穂が「驚いたように」

なったのはなぜだと思えますか。その理由として適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、自分が一生懸命合唱の準備をしているのに、そのことを考慮こうりよしてくれず、マチが突然とつぜん声をかけてきたから。

イ、自分の行動でマチを怒おこらせてしまったと思っていたのに、そんなそぶりを見せずマチが挨拶あいさつしてくれたから。

ウ、文通の相手があたかも自分が相手であるかのよう
にマチが挨拶あいさつしてきたから。

エ、失敗して落ち込こんでいたところ、マチが自分をなぐさめるように優しく挨拶あいさつしてくれたから。

問七 —— 線③とありますが、「気づくこと」とはどう

いうことですか。五十字以内でまとめなさい。

問八 —— 線④とありますが、「練習をまとめるきつ

け」とは何ですか。四十字以内で答えなさい。

問九 には「マチ」か「みなみ」が入る。

マチならばAを、みなみならばBを解答らんに書き入れなさい。

問十 に入る、マチの胸をざわざわさせる考

えとはどのようなものだと思いますか。答えなさい。

以下白紙です。